

度会町における

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会
平成30年10月

本年4月17日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。このことを今回の調査においても十分考慮し、今後の当町の教育の一層の充実を図ってまいります。

1、全体概要

■各教科平均正答率の状況

<小学校>

(%)

平均正答率	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
度会町	72	57	66	52	60
三重県	70	54	63	50	59
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

<中学校>

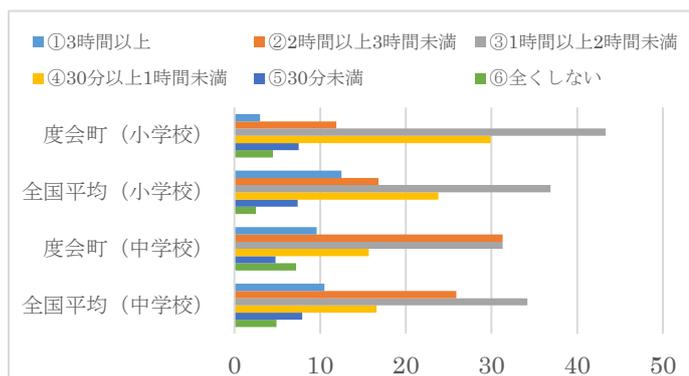
(%)

平均正答率	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
度会町	74	57	62	38	63
三重県	75	60	67	46	66
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

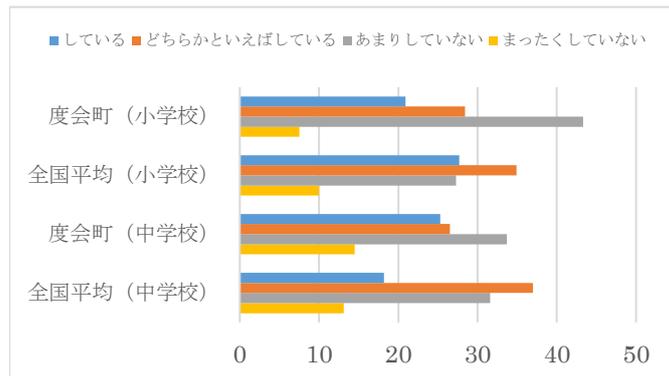
- A…主として「知識」に関する問題
- B…主として「活用」に関する問題
- 理科…（主として）「知識」と活用に関する問題を一体的に出題

■学習習慣等の状況

<学校の授業以外に、平日どれくらいの時間、勉強しますか>

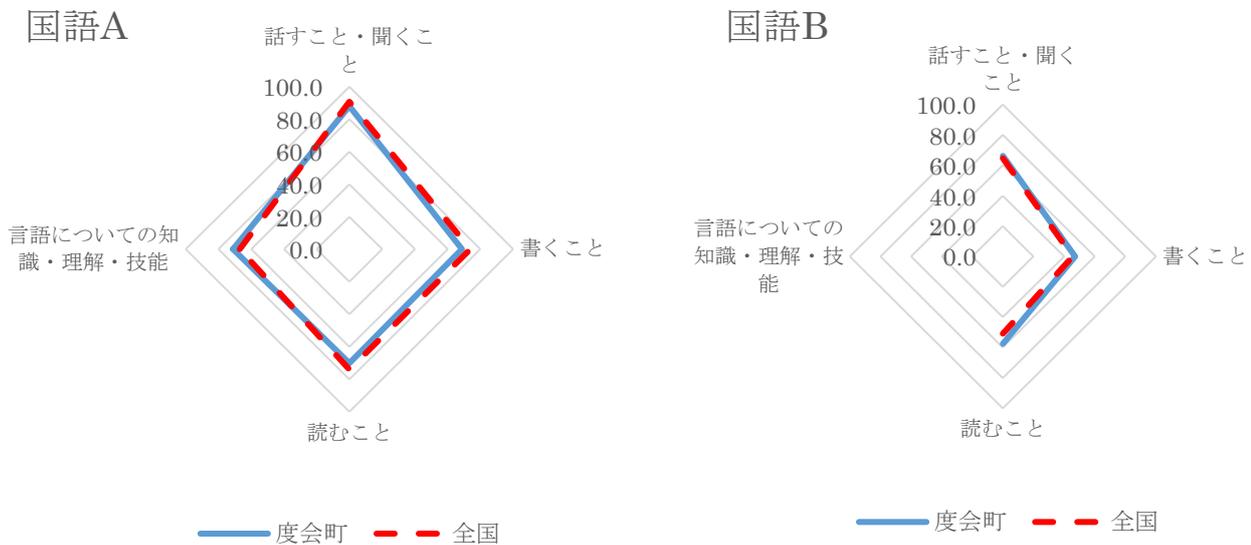


<家で、学校の授業の予習・復習をしていますか>



【1】小学校国語

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◆自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える力に課題がみられます。

- ・問題 A² 物語を書く時の構成の工夫の説明として適切なものを選択する。
(町 68.7% 県 73.0% 全国 73.8%)

◇日常生活で使われている慣用句の意味を理解することが出来ています。

- ・問題 A⁶ 慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する。
(町 94.0% 県 89.6% 全国 90.4%)

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことが概ね出来ています。

- ・問題 A⁸ア 「せい造」に必要な設備… →「製造」
(町 88.1% 県 72.5% 全国 73.4%)

◆目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることに課題がみられます。

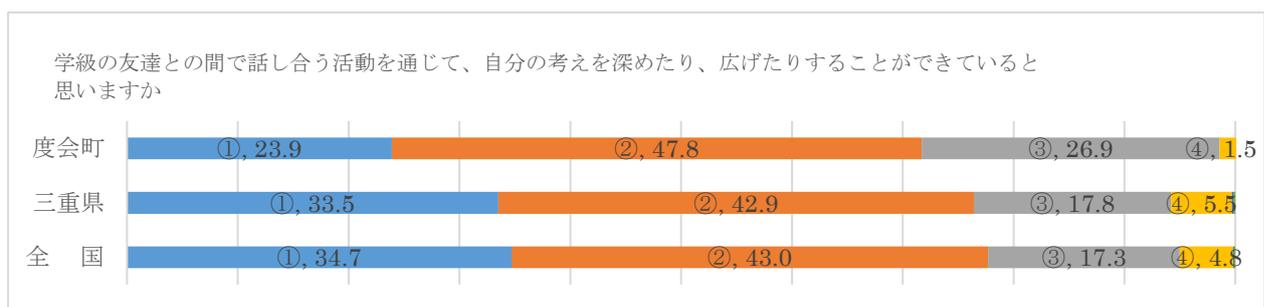
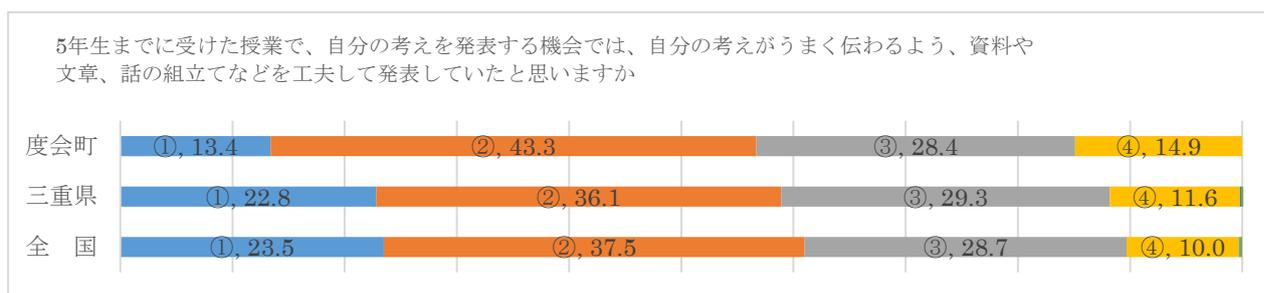
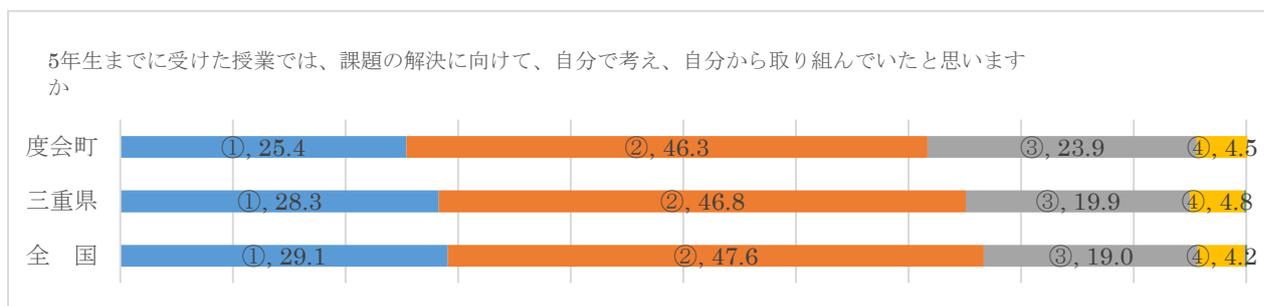
- ・問題 B²(1) ~について、…の最初の部分に「 」のように書いた理由として適切なものを選択する。
(町 53.7% 県 56.8% 全国 57.6%)

◇目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことが概ね出来ています。

- ・問題 B³一 どのようなことが知りたくて○○を読んだのか、その説明として適切なものを選択する。
(町 59.7% 県 47.0% 全国 49.4%)

■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



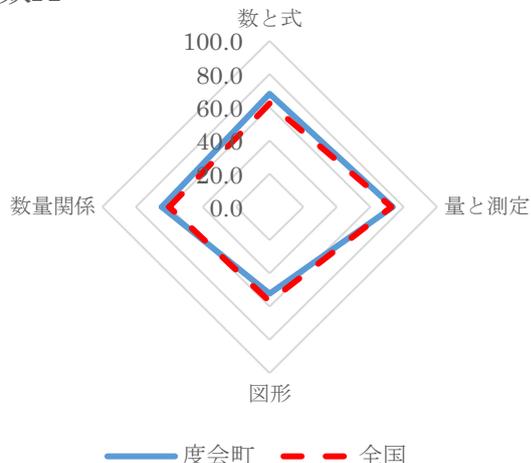
■全体的傾向と課題

- ・基礎的・基本的な知識・技能は、概ね身につけています。漢字や敬語、日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、文の中で正しく使うことが概ね出来ています。
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫していたことに肯定的な回答を56.7%の児童がしているのに対し、自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら筋道を立てて話す力や、必要な情報を捉える力が全国平均と比べると低い結果となっています。学習目標を明確にした発表の機会の拡充や話の全体構成の見直しなど実践的な指導の強化が必要です。

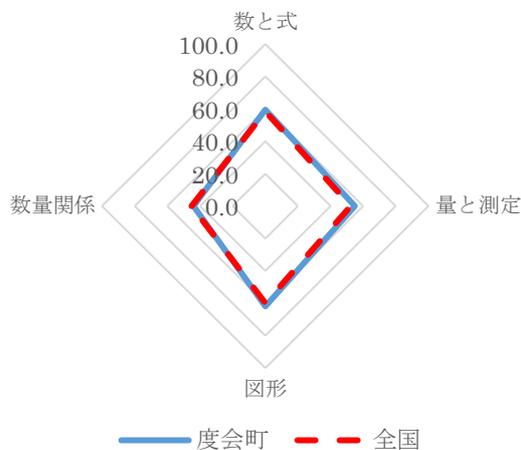
【2】 小学校算数

■ 領域別平均正答率の状況

算数A



算数B



■ 調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◇除法で表すことができる二つの数量の関係を概ね理解しています。

- ・問題A①(1) 針金 0.2mの重さと針金 0.1mの重さを書く。

(町 77.6% 県 63.6% 全国 62.9%)

◇少数の除法の意味について、約半数の児童が正しく理解しています。

- ・問題A② 答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ。

(町 49.3% 県 36.9% 全国 39.9%)

◆直径の長さと同周の長さとの関係についての理解に課題がみられます。

- ・問題A⑦(2) 円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ。

(町 40.3% 県 56.2% 全国 55.6%)

◇合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す力はほぼ習得できています。

- ・問題B①(1) 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出すことができる図形として、正しいものを選ぶ。(町 76.1% 県 72.4% 全国 71.7%)

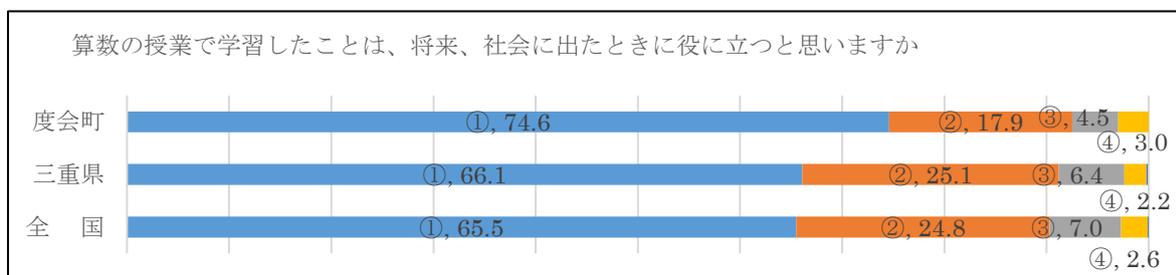
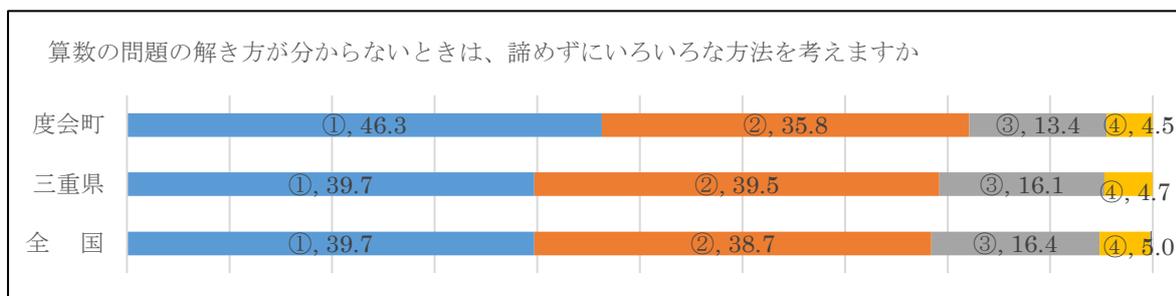
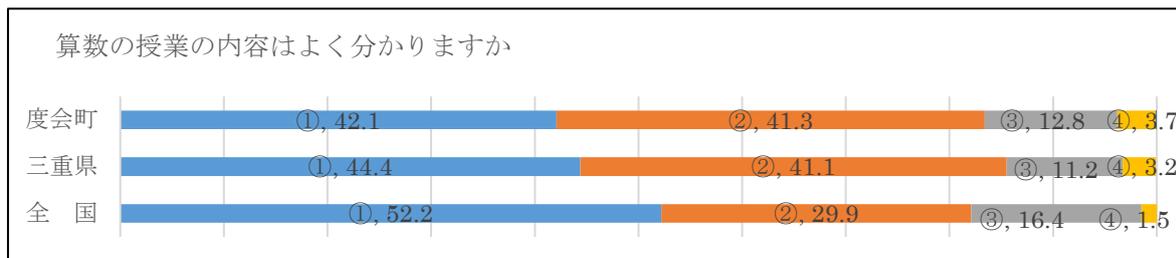
◆示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述する力に課題がみられます。

- ・問題B④(2) 横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く。

(町 50.7% 県 56.7% 全国 59.5%)

■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



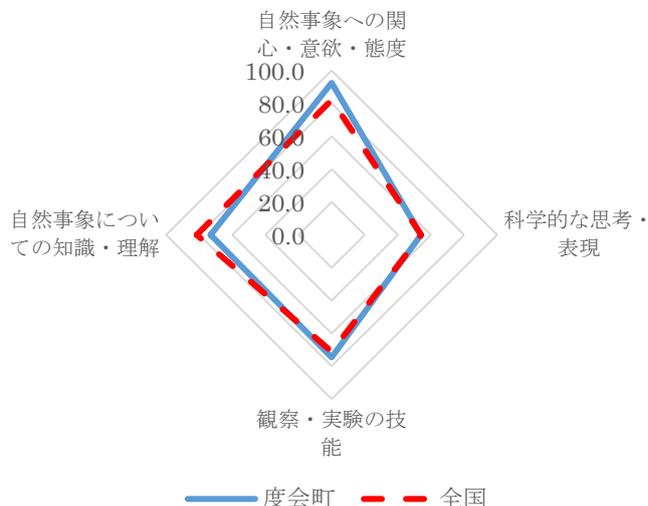
■全体的傾向と課題

- ・基礎的・基本的な計算技能の習得については、概ね理解できています。反復学習と見直しの習慣の意識付けなど個に応じた指導が実を結んでいます。
- ・小数や三桁の数字の計算などよく理解し安定した結果となっています。また、図形の角度を求める問題でも高い正答率を出しています。しかし、同じ図形でも円や円周の範囲となると習得にむらが見られることから、この範囲については、基礎からの復習と演習の反復を実施し安定した理解の向上が必要です。
- ・「将来社会に出たときに役立つと思いますか」という問いに、92.5%の児童が肯定的な回答をしているにもかかわらず、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えているか」という問いに58.2%しか肯定的な回答をしていません。学習したことの有用性を実感できる機会や場の設定を大事にしていくことが必要です。

【3】小学校理科

■領域別平均正答率の状況

理科



■調査問題結果からみる傾向（◇強み ◆弱み）

◇調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することが概ね出来ています。

- ・問題 ①(2) 鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのか選ぶ。 (町 82.1% 県 74.4% 全国 76.2%)

◆堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解することに課題があるようです。

- ・問題 ②(1) 流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ。 (町 68.7% 県 81.2% 全国 83.6%)

◆土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する力に課題があるようです。

- ・問題 ②(2) 流れる水の働きによる土地の浸食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ。 (町 44.8% 県 53.2% 全国 55.4%)

◆電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題があるようです。

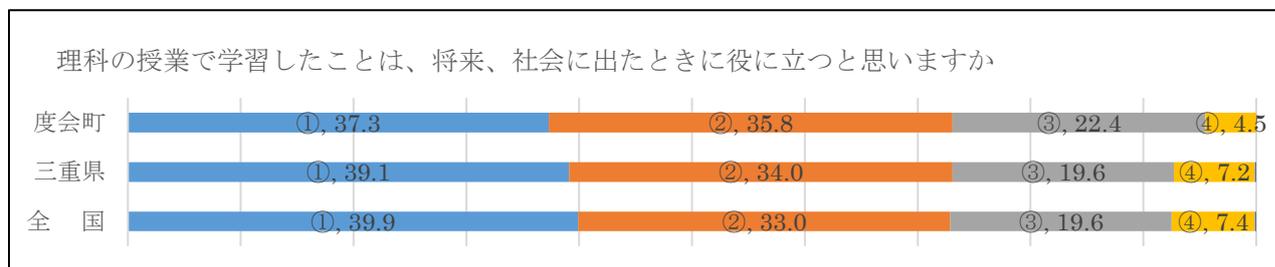
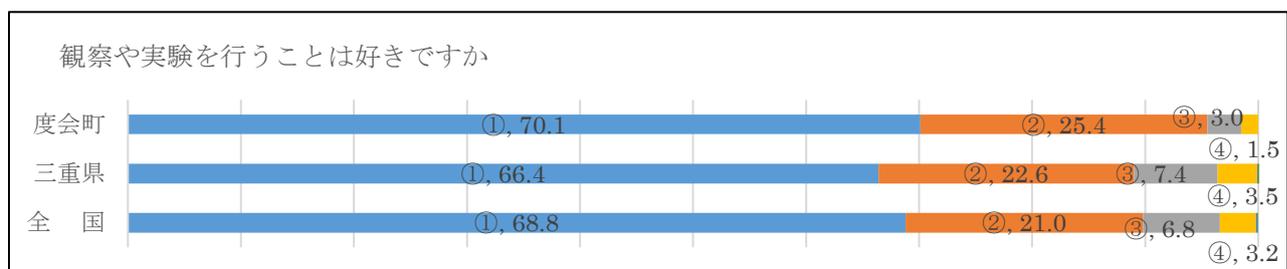
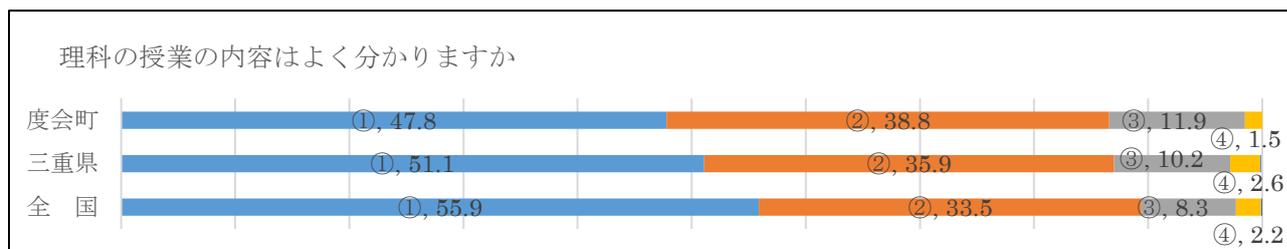
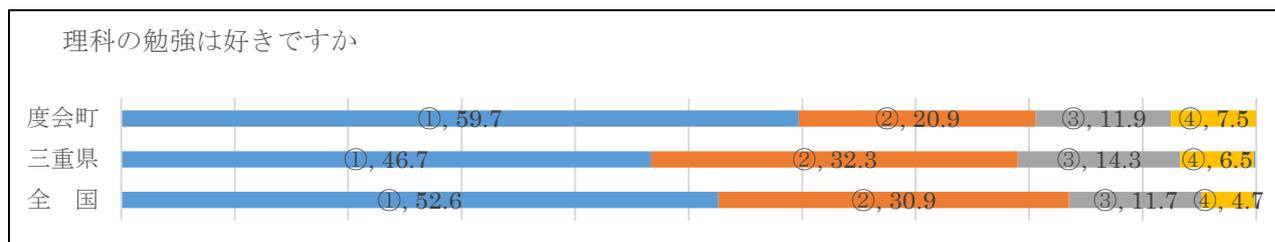
- ・問題 ③(2) 回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ。 (町 37.3% 県 45.5% 全国 47.7%)

◇太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用する力があります。

- ・問題 ③(4) 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ。 (町 61.2% 県 45.1% 全国 41.9%)

■学習への関心・意欲・態度（児童質問紙から）

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



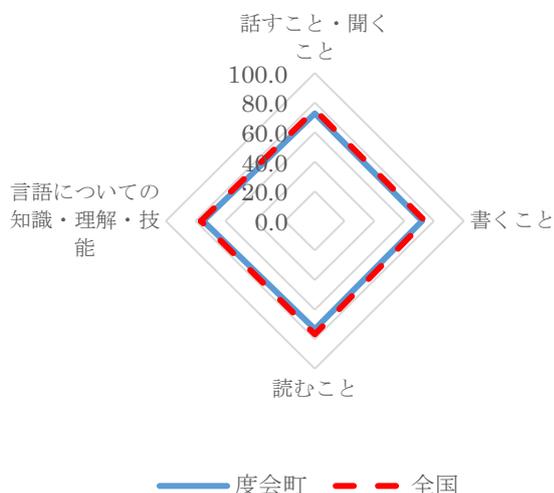
■全体的傾向と課題

- 土地の浸食に対する知識だけでなく、自分の考えと異なる他者の予想の内容も捉え、その予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通して実験を構想する力や、大雨が降った時の地面の削られ方の判断、予想する力について、いずれも低い正答率になっています。理科を学習することの有用性を感じることが出来るようにする重要性についても意識して授業をすすめることが必要です。
- 観察・実験後に児童が既にもっている自らの予想や仮説を検討する問題の正答率が低い結果となっています。見直しや振りかえりをしっかりとする習慣づけと、多面的な考察ができるように指導していくことが必要です。
- 観察や実験が好きだと答える児童がほとんど全員であり、その好奇心や関心の高さを自主的な授業展開の工夫につなげていきたいと考えます。

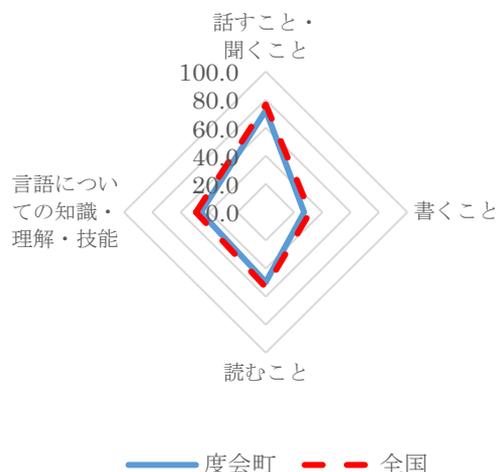
【4】中学校国語

■領域別平均正答率の状況

国語A



国語B



■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◆場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することに課題があるようです。

- ・問題A3二 父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する。
(町 73.5% 県 81.6% 全国 82.8%)

◆語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える力にむらがあるようです。

- ・問題A7一 場面当てはまる語句の意味として適切なものを選択する。
(町 79.5% 県 86.5% 全国 87.3%)

◇慣用句の意味の理解については、概ね出来ているようです。

- ・問題A8四1 「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する。
(町 96.4% 県 94.7% 全国 94.7%)

◆古典に表れたものの見方や考え方を理解する力にやや課題があります。

- ・問題A8六3 『韓非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する。
(町 71.1% 県 81.3% 全国 81.3%)

◆文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える力に課題があります。

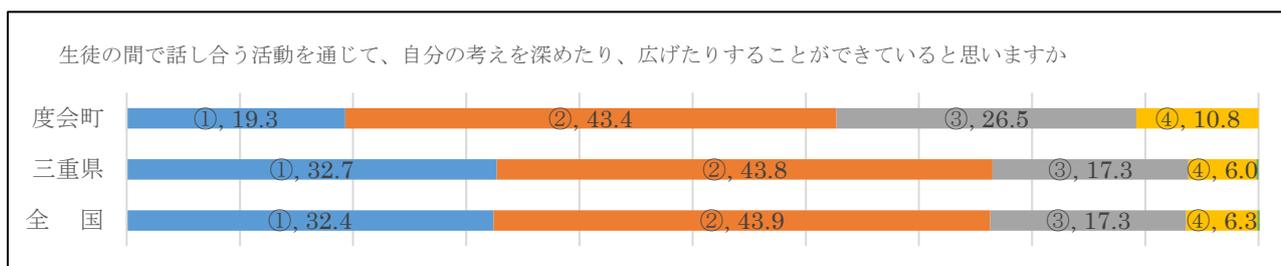
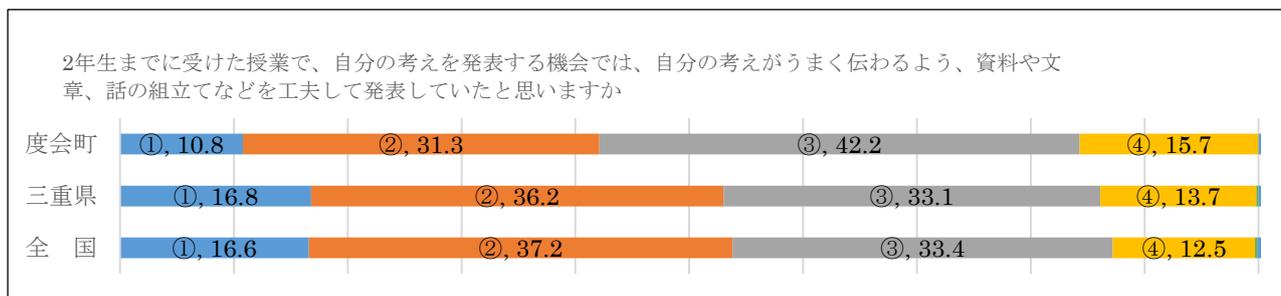
- ・問題B1一 グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する。
(町 37.3% 県 44.8% 全国 45.9%)

◆全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す力に課題がみられます。

- ・問題B2三 ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する。
(町 49.4% 県 51.2% 全国 54.6%)

■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

① 当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



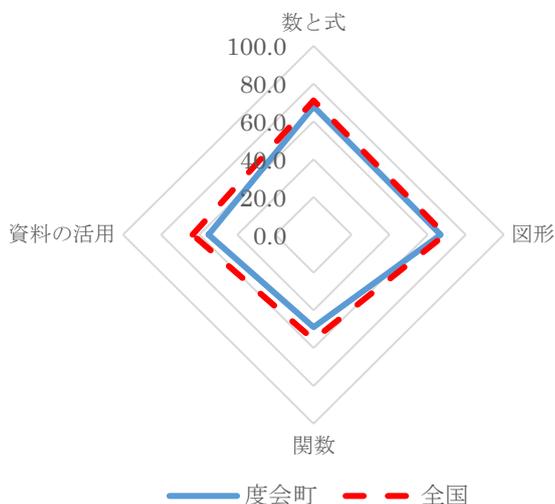
■全体的傾向と課題

- ・漢字や慣用句の意味などはよく理解し、概ね習得されていますが、活用や工夫に関する発展的な問題については指導の充実が必要です。
- ・読む力がやや低い傾向にあるため、日ごろから読む機会の拡充が求められます。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか。という問いについて肯定的な回答をした生徒は半数にも達しない結果となりました。話す・聞く・書く・読むの4項目の結果が全国平均を下回っており、教科全体における指導の見直しが必要です。
- ・資料の関係を考えながら内容を捉える力が低く、全国平均よりも低い正答率となっています。想像、分析、比較、対照、推論などを相互に関連付けて読む力の育成が必要です。

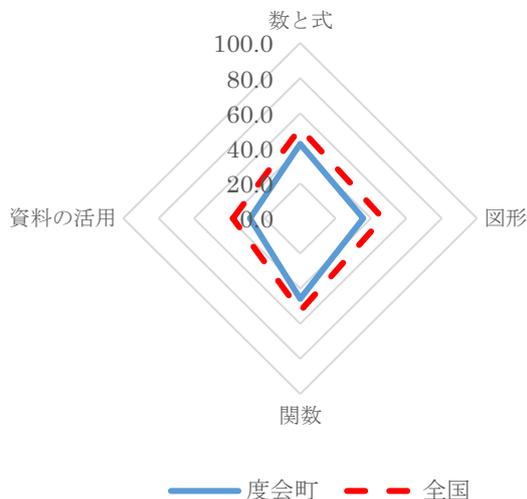
【5】中学校数学

■領域別平均正答率の状況

数学A



数学B



■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◆指数を含む正の数と負の数の計算の習得にむらが見られます。

- ・問題A \square 1(3) $2 \times (-5^2)$ を計算する。 (町 59.0% 県 70.6% 全国 68.9%)

◆具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形する力に課題が見られます。

- ・問題A \square 2(4) 等式 $S = 1/2ah$ を、 a について解く。 (町 33.7% 県 47.5% 全国 48.2%)

◆折り目の線の作図と角の二等分線の関係の理解にむらがあります。

- ・問題A \square 4(2) $\triangle ABC$ を辺 AB が辺 AC に重なるように折った線を作図するための線を選ぶ。 (町 45.8% 県 55.1% 全国 54.9%)

◆一次関数 $y = ax + b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求める力にむらがあります。

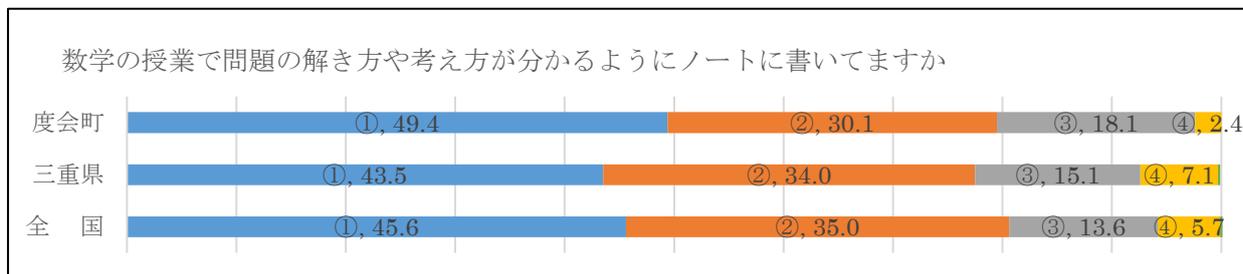
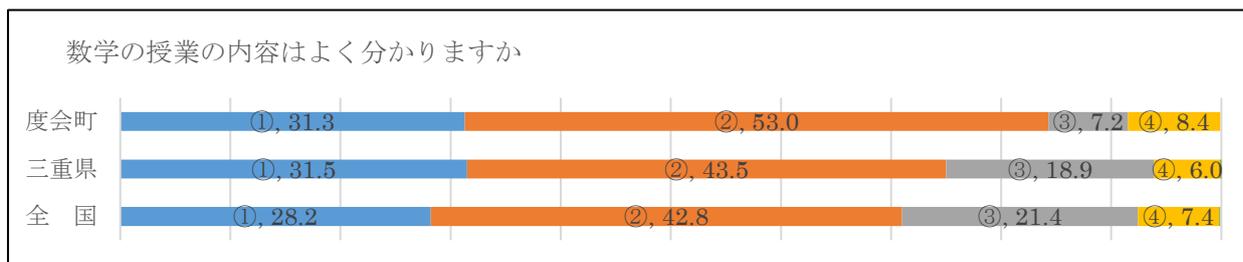
- ・問題A \square 11(1) 一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が 1 から 4 まで増加したときの y の増加量を求める。 (町 34.9% 県 45.7% 全国 45.3%)

◆連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の 2 直線の交点であることを理解していない生徒の比率が高いです。

- ・問題A \square 13 グラフから、連立二元一次方程式の解の座標とする点について、正しい記述を選ぶ。 (町 50.6% 県 64.8% 全国 62.7%)

■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



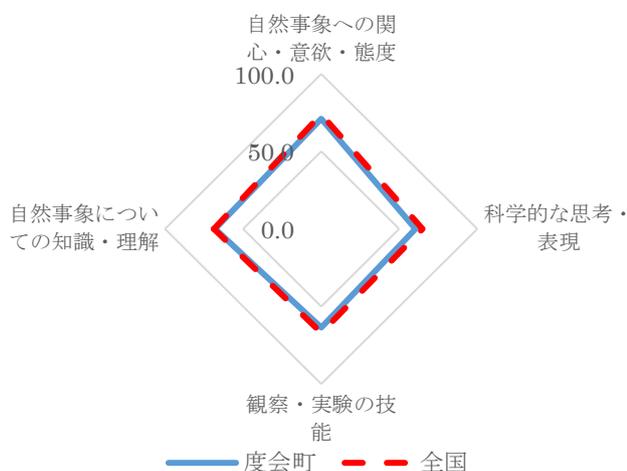
■全体的傾向と課題

- ・基礎的な計算技能をはじめとする計算はほぼ出来ているものの、指数を含む正の数と負の数の計算のように、計算式の規則的な要素が入ってくると、習得にむらがあるせいか正答率は大きく下がり、全国平均よりも低くなります。基礎的な知識から復習し、反復演習等で確実に身に付ける必要があります。
- ・等式問題や一元一次方程式の正答率が全国平均を大きく下回っています。個別の指導による基礎の復習や演習問題の反復などで理解を深めていく必要があります。
- ・「数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という問いに対して、肯定的な意見を全国・県が平均7割を超えているのに対して、町平均は6割程度にとどまっています。

【6】中学校理科

■領域別平均正答率の状況

理科



■調査問題結果からみる傾向 (◇強み ◆弱み)

◆光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用する力に課題がみられます。

- ・問題 1 光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見出す。(町 53.0% 県 60.7% 全国 61.7%)

◆化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明する力の習得にむらが見られます。

- ・問題 4(3) 化学変化の前後で「原子の種類と数」は変化しないという知識と、化学変化を原子や分子のモデルで表す知識・技能を活用して、ガスバーナーの炎が赤いときの化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明する。(町 42.2% 県 49.2% 全国 49.4%)

◇神経系の働きについての知識を概ね習得しています。

- ・問題 5(1) 信号を見てブレーキを踏むまでの反応の経路について答える。(町 62.7% 県 57.6% 全国 57.2%)

◆電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識の習得にむらが見られます。

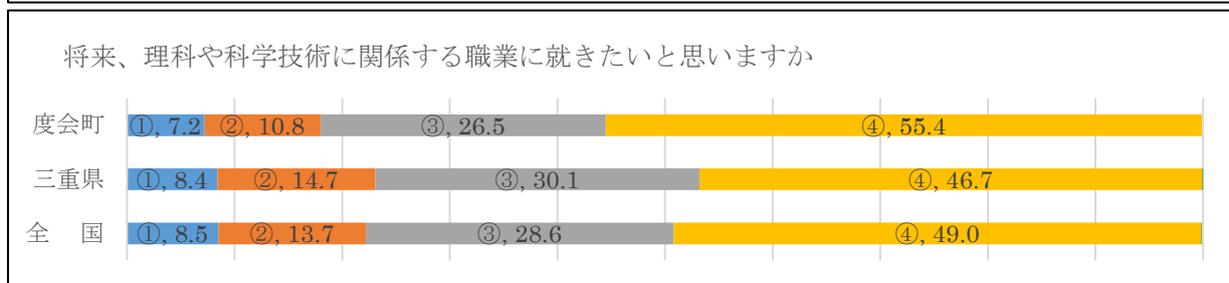
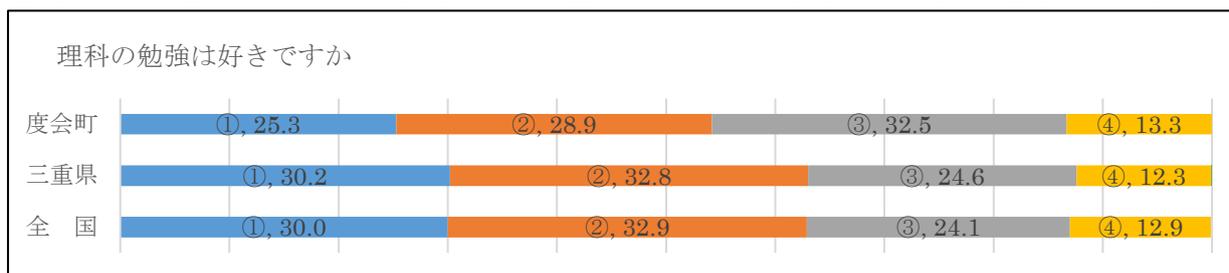
- ・問題 6(1) 選択肢の中から、電流計と電圧計の電気用図記号を正しく選ぶ。(町 62.7% 県 71.2% 全国 70.5%)

◇オームの法則を使って、抵抗の値を求めることが概ねできています。

- ・問題 6(2) 抵抗 豆電球に 3.0V の電圧を加えたときの回路に流れる電流を表 1 から求めなさい。また、このときの豆電球の抵抗の大きさは何Ωですか。(町 56.6% 県 50.2% 全国 51.9%)

■学習への関心・意欲・態度（生徒質問紙から）

①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる ③どちらかといえば、当てはまらない ④当てはまらない



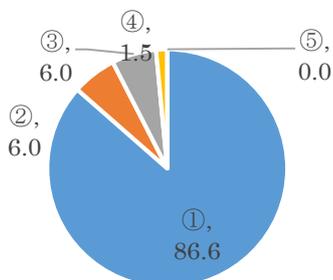
■全体的傾向と課題

- ・基礎的な知識の習得にむらが見られ、物理領域の問題においては、平面鏡に映った像の見え方や、光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能の活用が全国平均より低い正答率となっています。また、化学領域の水溶液の濃さに関する問題では、食塩の質量を一定にして水の量を変えたときの「水の量が多いほど濃度が低い」という濃度の概念が身につけていない生徒が多く、全国平均よりも低い正答率でした。観察や実験などを通して、その結果をもとに考察し、自身の知識として習得していけるように指導していくことが求められます。
- ・理科が好きか？将来の職業として考えられるか？などの質問に肯定的な回答は少なく、理科に対する興味・関心の低さや、理科の有用性を実感できている生徒が少ないアンケート結果となっています。

3、児童生徒質問紙調査の概要

【1】生活習慣

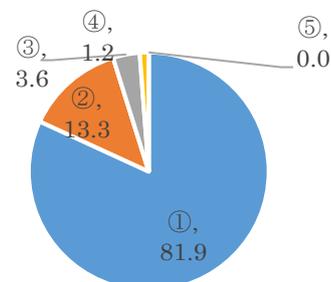
■小学校



朝食を毎日食べているか

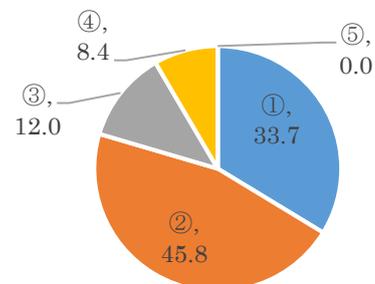
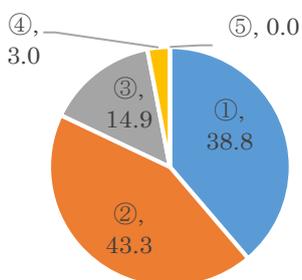
- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ まったくしていない
- ⑤ 無回答

■中学校



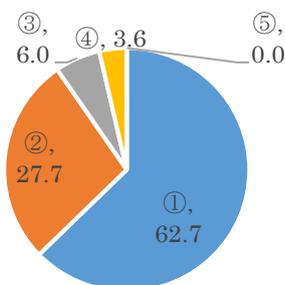
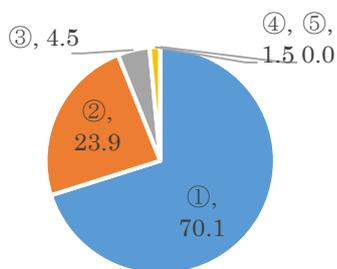
毎日同じくらいの時刻に寝るか

- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ まったくしていない
- ⑤ 無回答



毎日同じくらいの時刻に起きるか

- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ まったくしていない
- ⑤ 無回答

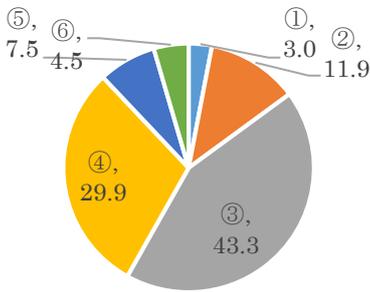


度会町の小・中学生の状況です。毎日朝食を食べている児童・生徒の割合は高く、ほとんどの子どもたちが朝食をきちんと食べていることがわかります。また、毎日同じくらいの時刻に寝て、起きるといふ児童・生徒の割合も高く、ほとんどの子どもが規則正しい生活習慣を身につけていることがわかります。しかし、約1割ほどの子どもたちが不規則な生活を送り、朝食を食べずに登校しているという実態があります。

不規則な生活は自律神経に影響を与えます。朝食を食べないことは集中力の欠如につながり、学力の低下にも影響します。家庭における子どもたちへの指導、サポートが重要となってきます。

【2】家庭学習

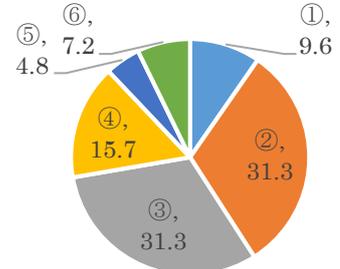
■小学校



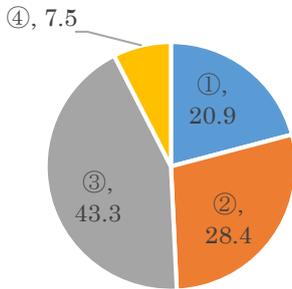
平日の勉強時間(学習塾・家庭教師含む)

- ① 3時間以上
- ② 2時間以上3時間未満
- ③ 1時間以上2時間未満
- ④ 30分以上1時間未満
- ⑤ 30分未満
- ⑥ 全くしない

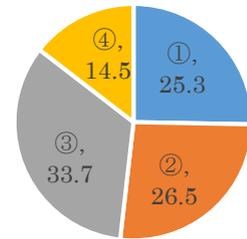
■中学校



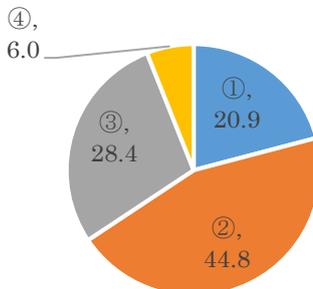
家で、学校の予習復習をしていますか



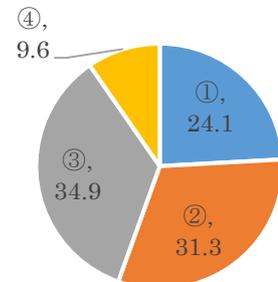
- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ まったくしていない



自分で計画を立てて勉強していますか



- ① している
- ② どちらかといえば、している
- ③ あまりしていない
- ④ 全くしていない



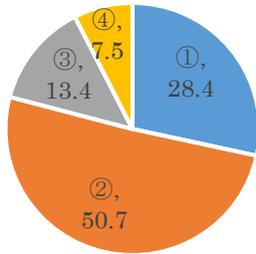
平日1時間以上勉強している小学生の割合は58.2%（全国平均66.2%）で、全国平均と比べて、大きく下回っています。

中学生では、平日1時間以上勉強している生徒の割合は72.2%（全国平均70.6%）で、全国平均とほぼ同程度の割合です。しかし、「全くしない」生徒が平日では7.2%（全国平均4.9%）とやや高い傾向にあります。

また、家庭での予習復習に取り組んでいる小学生が49.3%（全国平均62.6%）、中学生で51.8%（全国平均55.2%）と全国平均と比べて課題が見られます。

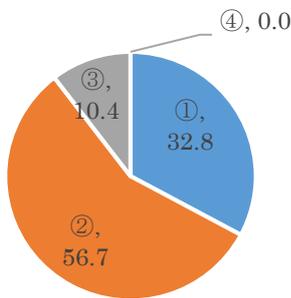
【3】 学校生活・規範意識

■ 小学校



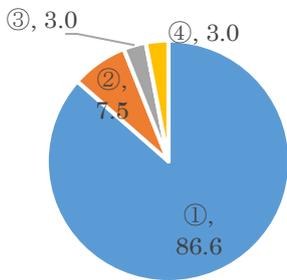
先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



学校のきまり(規則)を守っていますか

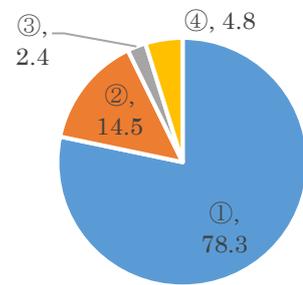
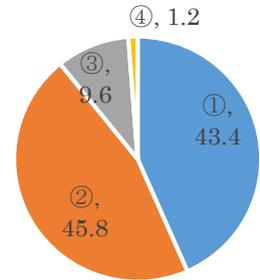
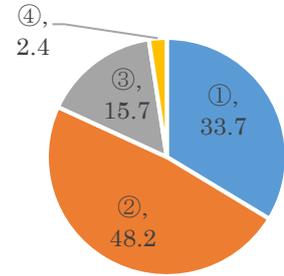
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

■ 中学校



学校のきまりや、いじめに対する意識など、児童生徒の規範意識は比較的高い傾向にあります。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」という問いに対して、小学校、中学校ともに約 8 割の児童生徒が肯定的な回答をしています。教師と児童生徒の間に交流がしっかりあることが伺えます。しかし、約 2 割の児童生徒が否定的な回答をしていることから、声掛けだけでなく、交流ノートの活用など、子どもたちの声に耳を傾けていくことが大切です。

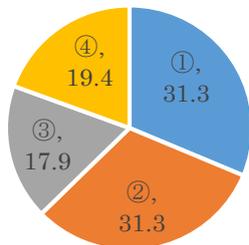
「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、肯定的な回答をしている児童・生徒ほど教科の正答率が高いという結果が出ており、このことから自尊心と学力が密接につながっていることが分かります。

【4】地域、社会に対する興味・関心

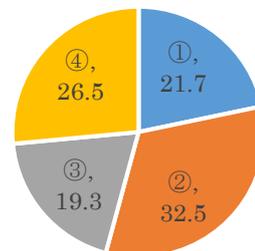
■小学校

■中学校

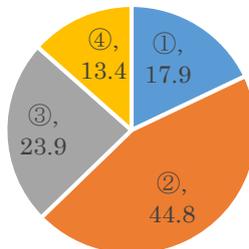
地域の行事に参加していますか



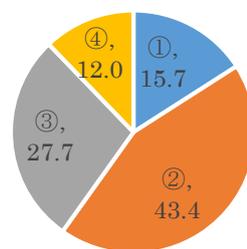
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



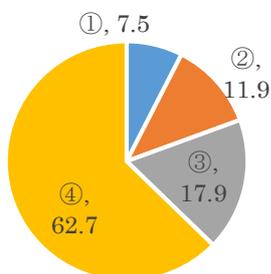
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



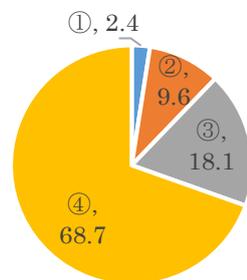
- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない



新聞を読んでいますか



- ① ほぼ毎日読んでいる
- ② 週に1~3回程度読んでいる
- ③ 月に1~3回読んでいる
- ④ ほとんど、または全く読まない



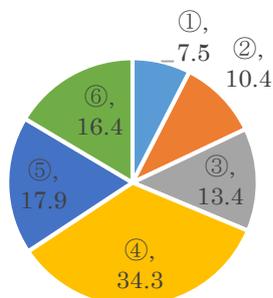
地域の行事に参加している児童は62.6%（全国平均62.7%）、生徒は54.2%（全国平均45.6%）と、中学生になるほど地域との関わりがやや薄くなるのがうかがえますが、全国と比べると高い割合となっています。昨年度と同じく、地域や社会で起こる問題や出来事への関心はやや高い傾向にあることから、関わりを持つための時間の確保が難しいと考えられます。

テレビのニュース番組やインターネット（携帯電話を使う場合を含む）のニュースは、小学生で77.7%（全国平均86.2%）、中学生で81.9%（全国平均86.6%）の児童生徒が見ていますが、新聞を読んでいる割合は、昨年度同様、小中学生とも全く読まない割合が高いことから、一層の活字離れがうかがえます。また、近年多くの媒体から情報を得ることができ、それぞれの家庭において新聞の捉え方も変わりつつある実態が読み取れます。

そのため、小・中学校では、校外学習や体験活動の後に、個人新聞を作成する活動を計画的に取り入れ、読み手を意識した効果的な紙面づくりの技能を身に付ける指導を行っています。

【5】読書活動

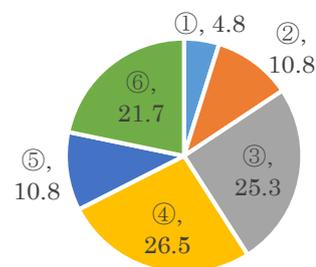
■小学校



平日、学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

- ①2時間以上
- ②1時間以上、2時間未満
- ③30分以上、1時間未満
- ④10分以上、30分未満
- ⑤10分未満
- ⑥全くしない

■中学校



質問紙調査によると、平日1時間以上読書をする小学生は17.9%（全国平均19.3%）、中学生は15.6%（全国平均14.8%）と2割にも満たない結果となっています。また、「平日に読書を全くしない」と回答する児童生徒が小学生で16.4%（全国平均18.7%）、中学生21.7%（全国平均32.9%）と一定割合存在しており、ここでも活字離れが読み取れます。

小・中学校ともに、読む力、書く力（表現する力）に課題があることから、活字に触れる機会をできるだけ多く持ちたいと考えます。

小・中学校では、司書教諭や図書運営員を中心に、児童生徒の読書環境の整備に努めており、図書室を活用した授業づくりや、家庭での読書活動につながる取組を引き続き図っていく必要があります。

4、学校質問紙調査の概要

全国学力・学習状況調査では、児童生徒を対象としたもの以外に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する『学校質問紙調査』も実施されました。児童生徒に対する調査結果と併せて分析し、各学校の指導方法の工夫、改善に繋げていきます。

教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

<小学校>どちらかといえば、している <中学校>どちらかといえば、している

新しい学習指導要領が示され、学習内奥の系統性がより重視されています。新しい学習指導要領の内容も踏まえ、学年や教科の枠にとらわれず、チーム学校として、同じ教育理念のもと統一された指導に努めています。

この項目に対して肯定的な回答をしている学校は、小学校で全国平均 93.2%、中学校で全国平均 88.4%にのぼり、毎年増加傾向にあります。

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人ひとりの良い点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか

<小学校>よく行った <中学校>どちらかといえば、行った

自身の良いところを、第三者から認められ評価されるということは、誰にとっても大きな自信につながります。自己肯定感も生まれ、何事に対しても積極的に取り組むことが出来ます。自分の良いところも悪いところも含めて自分の全てを肯定できる前向きな心情が、何事にも挑戦していく強い心と相手を思いやる心の基礎であると言われていています。児童生徒の自立・共生のためにも自己肯定感を高めていく教育に引き続き務めていきたいと思えます。

校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

<小学校>週に2~3日程度 <中学校>週に2~3日程度

学校長は、授業の時間に限らず、登下校や昼休みの時間、時には児童生徒がいない玄関や教室など、校内の様子を直接見て確認します。管理職として学校全体を把握し、児童生徒の頑張りや困り感の把握、教職員一人ひとりの指導に対するアドバイスを行うことへの責任があります。

授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか

<小学校>どちらかといえば、行った <中学校>どちらかといえば、行った

学校での学習内容が、普段の生活や児童生徒の身近な問題の中で、生きた知識として活用されることが大切です。児童生徒質問紙調査によると、地域や社会の出来事に関心がある割合はやや高いのですが、関わる機会や時間の確保が難しい状況です。小中学校では、今後もいっそう身近な題材を適宜取り入れ、地域との交流を積極的に行っていきたいと思えます。

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

＜小学校＞よく行った ＜中学校＞よく行った

キャリア教育に際し、小学校では「自己肯定感を高めながら、夢や希望を持って努力し、意欲をもって学び続ける児童の育成」を推進目標としています。中学校では「望ましい職業観の育成とともに、卒業後、そして将来を見据えた進路選択・進路決定が主体的にできる生徒の育成」を目標に、3年間を通して系統的にきめ細かく指導を行っています。

平成29年度と同じく、この指導について小・中学校ともに積極的に行われたという回答になっています。

平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

＜小学校＞行った ＜中学校＞どちらかといえば、行った

全国学力・学習状況調査は、対象学年の児童生徒のためだけに実施されている調査ではなく、全ての児童生徒、全ての学年の教職員の授業工夫・改善のために実施される調査です。結果分析にあたっては、各校および町教育委員会の分析に加え、度会郡指導主事の分析指導も受けながら丁寧に行いました。

その上で、課題の克服に向け、県教育委員会学力向上アドバイザーによる学校支援や外部講師を招聘した校内研修、また教職員間での模擬授業の実践などにも取り組んでいるところです。

5、全体的な課題

学力調査からみえる課題

学習した知識・技能を日常の事象・現象、 また社会的問題に当てはめて考える力の育成

- ・初歩的基礎学力の習得に一部課題がみられます。個に応じた学習と反復学習で確実に身に付けていく指導が必要です。
- ・既習の知識や技能を活用し、主体的に取り組めるような身近で、かつ解決の必要性を感じるような課題設定が必要です。
- ・めあて・振り返りにより予想や仮説、結果の見通しを持たせることで、主体的な探究心を伸ばすような授業づくりが一層求められます。
- ・自分の考えを整理し、他者に伝えたり、書いてまとめたりする技能を身に付ける指導の充実が一層求められます。

学習状況調査からみえる課題

主体的に学習に向かう姿勢と生活習慣の見直し

- ・授業や家庭学習において、与えられた指示以外に、自ら課題を持ち、学習に向かう姿勢に課題が見られます。
- ・生活習慣の見直しや、家庭学習の習慣化に向け、家庭と連携し、日々の安定した家庭学習時間の習慣化をより強化していく必要があります。
- ・地域や社会で起こる出来事や問題に関心が低い児童生徒が多いです。学習の題材として適宜取り入れ、興味関心を喚起する話題に触れる機会の拡充が必要です。
- ・自己肯定感が低めの児童生徒に対し、授業に限らず、学校行事や学級活動を有効に活用し、主体的な意欲喚起につながる指導が求められます。

6、今後の取組・支援

【1】教育委員会が行う取組・支援

今回も全国学力・学習状況調査に際し、各学校では調査後一人ひとりの解答用紙をコピーし、自校採点を行いました。一つ一つの解答を示された類型ごとに分類し集計する作業は、かなりの時間と労力が必要でした。それでも、採点することで、一人ひとりのつまずきを把握し、解答を細かに分類することで、問題を深く研究し、学習指導要領で求められている力の理解を深め、その上で、これまでの授業を振り返り、早期から授業の工夫・改善に向け取り組んでいます。

町教育委員会では、こうした各学校の取組を支援するとともに、様々な情報提供を行い、指導主事の派遣を通じ、授業改善や校内研修がより効果的に行われるよう指導を行います。

■具体的事項

- ・少人数指導等、個に応じたきめ細かな指導が行えるよう引き続き支援します。
- ・特別な配慮を必要とする子どもへのサポート体制や、教育相談体制を一層推進します。
- ・教職員研修や研究授業の指定を通じ、教職員の資質向上ならびに授業力向上を図ります。
- ・町教育委員会と小中学校の担当者が会する度会町学力向上推進委員会等を通して、9年間を見通した教育の充実に努めます。
- ・度会町ふるさと歴史館等の学習施設の充実に努めるとともに、各種事業を通じた郷土学習に取り組めます。
- ・児童生徒の主体的な学習意欲を育むため、地域学習や体験活動など各種取組を支援します。
- ・計画的な図書整備や専門員配置など、読書環境の整備を継続して行います。併せて、読書推進に向けた各種事業にも積極的に取り組めます。
- ・地域の方々に、学校教育活動に一層興味・関心をもってもらい、学校とともに子どもたちを育み、見守っていただくため、学校ならびに教育委員会は積極的に情報を発信していきます。

【2】家庭や地域へお願いしたいこと

学校では、子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」を育てています。「学ぶ力」とは、「なぜ?」「知りたい」「調べてみよう」と、問題を見つけ出し、学んだ知識を活用しながら、見通しをもって、その解決を図る力のことをいいます。この育成の成果は、各ご家庭や地域の皆さま方の協力によって、何倍にも高めることができます。

子どもたちは、認められ励まされることで、「見守られているな」という安心感や、「頑張った良かった」という達成感、充足感を抱き、それが自信と今後の「学ぶ力」につながります。良いところは真っ直ぐ伸ばし、課題と考えられるところは、改善に向け、私たち大人が手を携え導いていくことが必要です。子どもたちの豊かな成長と、自ら学ぶ力を育むため、子どもとの関わりを振り返り、まずは一歩踏み出していただけませんか。

■保護者の皆さまへ

- ★「早寝早起きをする」「朝食をきちんと食べる」等毎日の規則正しい生活リズムが大切です。きちんとした生活習慣を身につけましょう。
- ★テレビ、ゲーム、携帯電話の使用は、ご家庭でしっかり話し合い、ルールを作りましょう。
- ★子どもの学習に目を向け、“頑張り”を見逃さず、応援してあげてください。自己肯定感を高め、何事にも意欲的に向かう姿勢を育てましょう。
- ★学校や身のまわりの出来事など、子どもと話す時間を持ち、しっかり聴いてあげてください。
- ★地域や社会の出来事に目が向くよう、新聞やニュースをもとに子どもに働きかけることが大事です。
- ★地域の行事やPTA行事には、子どもと一緒に参加しましょう。
- ★家族の一員として、家事への協力を呼びかけ、責任感と自立心を育てましょう。
- ★読書をとおした学びを応援してください。本を通じた共通の話題を持つことや、図書室に立ち寄るなど、無理なくできます。保護者の方も一緒に楽しみませんか。町民の皆さまが利用できる図書室として、町内には、中央公民館図書室（棚橋）、地域交流センター図書室（棚橋）、南伊勢高校度会校舎図書館（大野木）があります。

■地域の皆さまへ

- ・子どもたちは、元気にあいさつをしているのでしょうか。学年が上がると、照れもあるのか、声も小さくなりがちですが、地域の方との触れ合いは、まず「あいさつ」です。恥ずかしがっているようなら、一声掛けてあげてください。
- ・子どもたちは、地域での遊びや行事、交流活動から、社会性を身に付けていきます。良い行いは褒め、危険なことやマナーに反することには、毅然とした対応をお願いします。
- ・少子化により兄弟姉妹や地域内の同世代と関わる機会が減っています。また、生活のスタイルも変わりつつある中で、子どもが学校や家庭以外で、他者と関わる機会が今後一層減っていくことが危惧されます。中でも、異年齢者と関わる大切な機会は、今後いっそう地域の中で求められることとなります。温かい見守りと声掛けをお願いします。

教育のねらい…子どもの「自立」と「共生」
“子どもの可能性を真っ直ぐ伸ばしましょう”

中学生「独自性」

学習の仕方を振り返り、自分にあった学習計画や方法を検討し、取り組めるよう見守りましょう。

小学校5.6年「見届け・励まし、自主性を」

学習への目標を持たせ、自分のペースでじっくりと取り組めるように励まし、自主性を育てましょう。

小学校3.4年「認めて・ほめて、やる気を」

自分からやろうという気持ちを持たせ、十分にほめ、最後までやり遂げさせましょう。

小学校1.2年「寄り添う」

寄り添って学習させることで、わかる楽しさを実感させましょう。